ちょっと一息…　映画「ダーウィンの悪夢」を見て…「ごみ問題の悪夢」に陥らないために

さまざまなメディアで環境問題がテーマに取り上げられていますが、つい最近も「ダーウィンの悪夢」という題名の映画が公開され、大きな反響を呼びました。

映画「ダーウィンの悪夢」は、アフリカ中部、世界第２位の広さを誇るビクトリア湖とその周辺地域に生きる人々との関係を描いています。

ビクトリア湖はもともと数百種の固有種が生息し、その豊かな生態系から「ダーウィンの箱庭」と称されていました。この豊かな湖がもたらす恵みにより、多くの人々が日々の糧を得てきたのですが、50年ほど前にナイルパーチという外来種の巨大魚が放流されたことから、悲劇の連鎖が始まります。

まず、在来種の魚が外来種であるナイルパーチに食べ尽くされ、自給自足的な地域経済が破壊されてしまいます。かわりにナイルパーチを利用した大規模な外国資本による食品加工工場が周辺の町に建てられ、地元経済の中心となっていきます。食品加工業はビジネスとして大成功しますが、その利益の大半は一部の人々に独占されてしまいます。ナイルパーチがビクトリア湖に放流されたことは、結果として、多くの地元住民にとって、自給自足に基づく伝統的な生活基盤の喪失と様々なモラルの崩壊をもたらしました。

この映画が暗示している問題は、実は私たちが直面している「ごみ問題」にあてはめてみることができます。例えば、50年前（1950年代後半）と2008年を比較すると、私たち日本人の生活習慣や生活環境は大きく様変わりしています。現在では、コンビニエンスストアで24時間、いつでもペットボトルの飲み物やプラスチック製の包装容器に入った弁当・惣菜が手に入ります。また、オフィスでは、手軽に大量の印刷ができるコピー機やプリンターが普及し、毎日大量の紙が消費され、ファストフードやファミリーレストランでは、食べ残された大量の生ごみが出され、家電量販店では様々な新製品が売られています。

50年前はどうだったでしょうか。例えば、故障したテレビやラジオなどの電気製品や時計などは、近所の電気屋さん、時計屋さんが修理してくれましたし、酒屋さんは、家まで御用聞きにやってきては、飲み終わったビール瓶のケースを持って帰ってくれました。お豆腐屋さんや八百屋さんでは、必要な分だけ食材を買うことができましたし、買い物の時には買い物かごが使われていました。結果として、発生するごみは、現在よりはるかに少ない量ですんでいました。

日本にとっての「ナイルパーチ」＝「大量生産・大量消費に基づく使い捨ての文化・経済」が日本に導入され、普及し始めたのが、1950年代の高度経済成長期です。結果、日本は豊かな生活を手に入れましたが、一方で失ってしまったものもたくさんあります。ダーウィンが本当に夢見ていたものは何なのか、「ごみ問題の悪夢」に陥らないための知恵が今、求められています。

ごみの減量・リサイクルに役立つ情報をお待ちしてます！

平成17年度に発行を開始した3Rニュースも今回で第７号を数えました。3Rニュースでは、市民の皆さんが日々行っている、ごみの減量・リサイクルに向けた取り組みについても広く紹介していきたいと考えています。ごみの減量・リサイクルに役立つ情報、町内会等で行っているユニークな取り組み等ございましたら環境局廃棄物政策担当までどしどしお寄せください。

ごみ減量・リサイクル推進のボランティアリーダー廃棄物減量指導員にご協力ください。

廃棄物減量指導員は市長から委嘱され、ごみ排出方法の遵守指導や、ごみ減量の普及啓発などの活動を行っている地域のボランティアリーダーです。

編集後記

春先は入学や卒業、就職や転勤で引越しが多くなる季節ですが、先日仕事の都合で引越しをする友人を手伝う機会がありました。読者家である友人は、大量の書籍をコレクションしていたのですが、転勤先に全てを持っていけないため、大切にしていた書籍の大半を手放すことになりました。ただ、売ったり、捨てたりはせず、全て仲間うちで引継がれることになりました。一冊一冊にこめられた思い出も一緒に引継いだようで、これからも大切に読み継いでいかねば、と思っています。（F）

編集・発行／　〒210－8577（住所はなくても届きます）　川崎市環境局廃棄物政策担当
（電話）　200－2580　（電子メール）　30haise@city.kawasaki.jp
ごみ・リサイクルに関するHP／http://www.city.kawasaki.jp.30/30genryo/home/menu/htm